2025年度
第2四半期連結決算説明資料

2025年11月12日

株式会社 酉島製作所
（6363）

【1】2025年度第2四半期決算実績

【2】重点課題の対応

【3】2025年度通期決算見通し

【4】トピックス

【1】2025年度第2四半期決算実績

【2】重点課題の対応

【3】2025年度通期決算見通し

【4】トピックス

2025年度 第2四半期決算のポイント

- 受注高は483億円と年間計画に向けて順調に推移。
- 売上高は、官需・民需・海外・子会社とも好調で412億円と大幅増収。
- 売上総利益率が1.6pt低下し、それに伴い営業利益は5億円と
  前年同期比で1億円減益。
- 純利益は、前期に特別利益10億円を計上したこともあり、前期比で6億円減少。
- 売上高は、2029年度の中期計画1,000億円に向け順調に伸長しており、
  収益も昨年度以上を期待できる見込み。ただし、外注費を削減するための
  投資を着実に行っているものの、その効果は来期以降にずれ込むことにより、
  収益面については当初計画の下方修正を行う。

2025年度 第2四半期決算概略

			前年同期比
● 受注高	—	**483億円**	▲95億円
● 売上高	—	**412億円**	+36億円
● 営業利益	—	**5億円**	▲1億円
● 経常利益	—	**0億円**	2億円
● 親会社株主に帰属する中間純利益	—	**▲1億円**	▲6億円

2025年度 第2四半期連結決算実績（連結）

TORISHIMA

単位：億円

	2024年度 第2四半期	2025年度 第2四半期	前年同期比		2025年度 通期計画 (2025年5月策定)	進捗率
			増減額	増減率		
受注高	578	**483**	▲95	▲16.4%	900	53.7%
売上高	376	**412**	+36	+9.6%	890	46.3%
売上総利益 （売上総利益率）	96 (25.5 %)	**99** **(23.9%)**	+3 (▲1.6pt)	+3.1%		
販管費	89	**93**	+4	+4.5%		
営業利益 （営業利益率）	6 (1.6%)	**5** **(1.3%)**	▲1 (▲0.3pt)	▲16.7%	67 (7.5%)	7.5%
営業外損益	▲8	**▲5**	+3	—	—	
経常損益	▲2	**0**	+2	—	58	—
特別損益	+10	**-**	▲10	▲100.0%	—	
親会社株主に帰属する 中間純利益	5	**▲1**	▲6	-	43	—
期末レート（1USD）	2024/9末：142.73円	2025/9末：148.88円			想定レート：145円	

受 注 ： 前年同期比の水準と比べると95億円減で483億円となったが、過去5年では2番目の受注高水準を維持。
売 上 ： 官需・民需・海外・子会社とも好調で全体では412億円と増収。
利 益 ： 増収ながらも売上総利益率の低下により、営業利益は前年同期比1億円減の5億円。

2025年度 第2四半期連結決算実績（単体・子会社別）

TORISHIMA

■単体

単位：億円

	2024年度 第2四半期	2025年度 第2四半期	前年度比	
			増減額	増減率
売上高	266	**320**	+54	+20.3%
売上総利益 （売上総利益率）	46 (17.3%)	**46** **(14.4%)**	0 (▲2.9pt)	±0
販管費	53	**53**	0	±0
営業利益 （営業利益率）	▲8 (▲3.0%)	**▲7** **(▲2.2%)**	+1 (0.8pt)	—

売上高は、官需は進行基準案件の売上が順調に計上されたことに加え、中東・北米向け案件の増加もあり、320億円と大幅増収。

一方、相対的に利益水準の低いハイテクポンプの比率が高く、売上増に伴う外注加工費の大幅増加も加わり、売上総利益率は2.9pt大きく悪化。

販管費は、賃上げ対応による労務費増加があったものの、固定費は前年並みを維持。

その結果、営業利益は昨年並みにとどまる。

■子会社（連結調整前）

単位：億円

2024年度 第2四半期	2025年度 第2四半期	前年度比	
		増減額	増減率
149	**165**	+16	+10.7%
53 (35.6%)	**56** **(33.7%)**	+3 (▲1.9pt)	+5.7%
40	**42**	+2	+5.0%
14 (9.4%)	**14** **(8.3%)**	▲0 (▲1.1pt)	+0.0%

売上高・売上総利益ともに、サービス子会社を中心に増加。

一方で販管費は、労務費等固定費などの影響で増加。

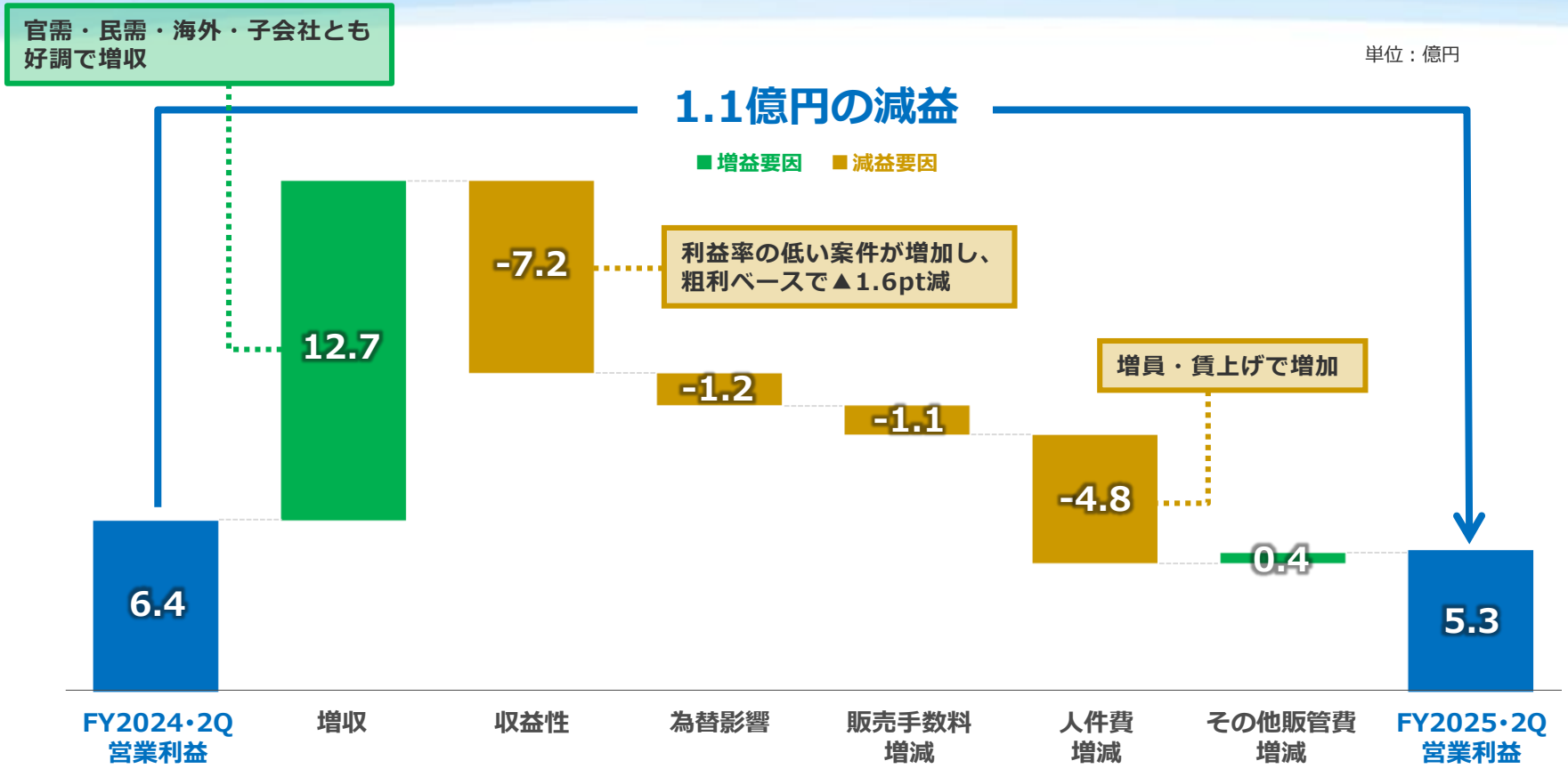
その結果、営業利益は14億円で前年並み。

※子会社決算は子会社の連結調整前の数字となっております。そのため、単体+子会社＝連結業績とはなりません。

連結営業利益の増減分析

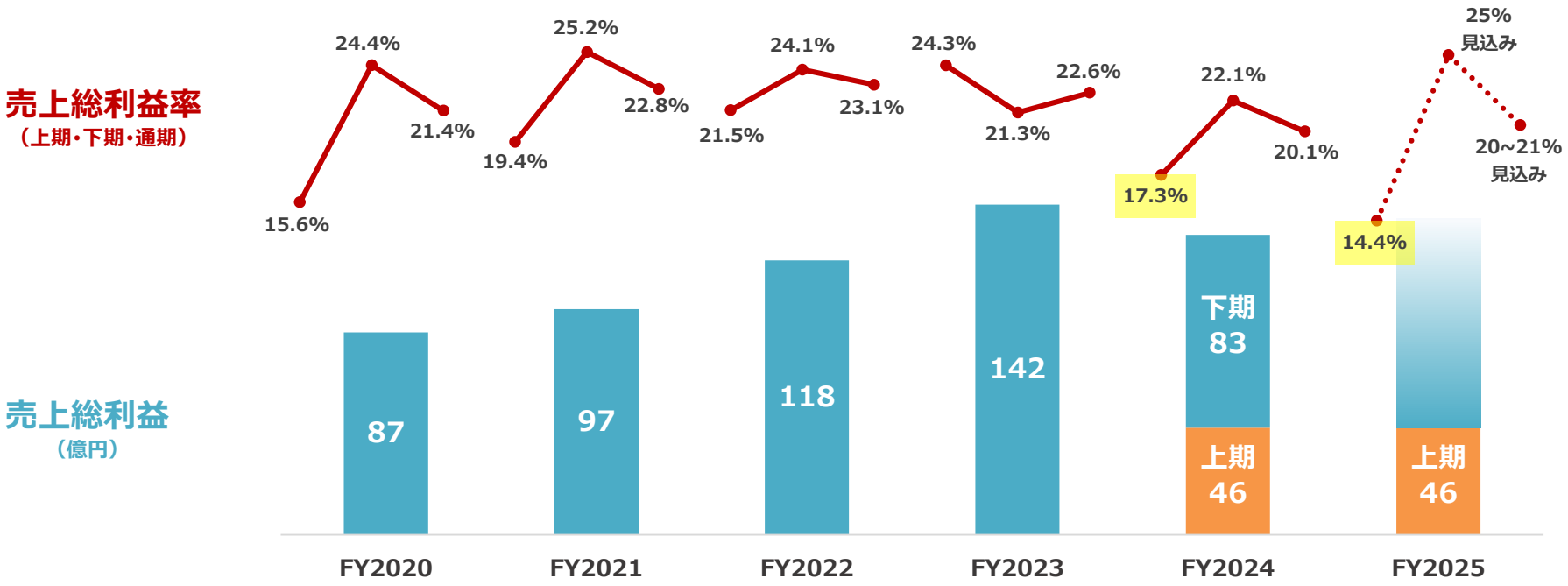
TORISHIMA

単位：億円



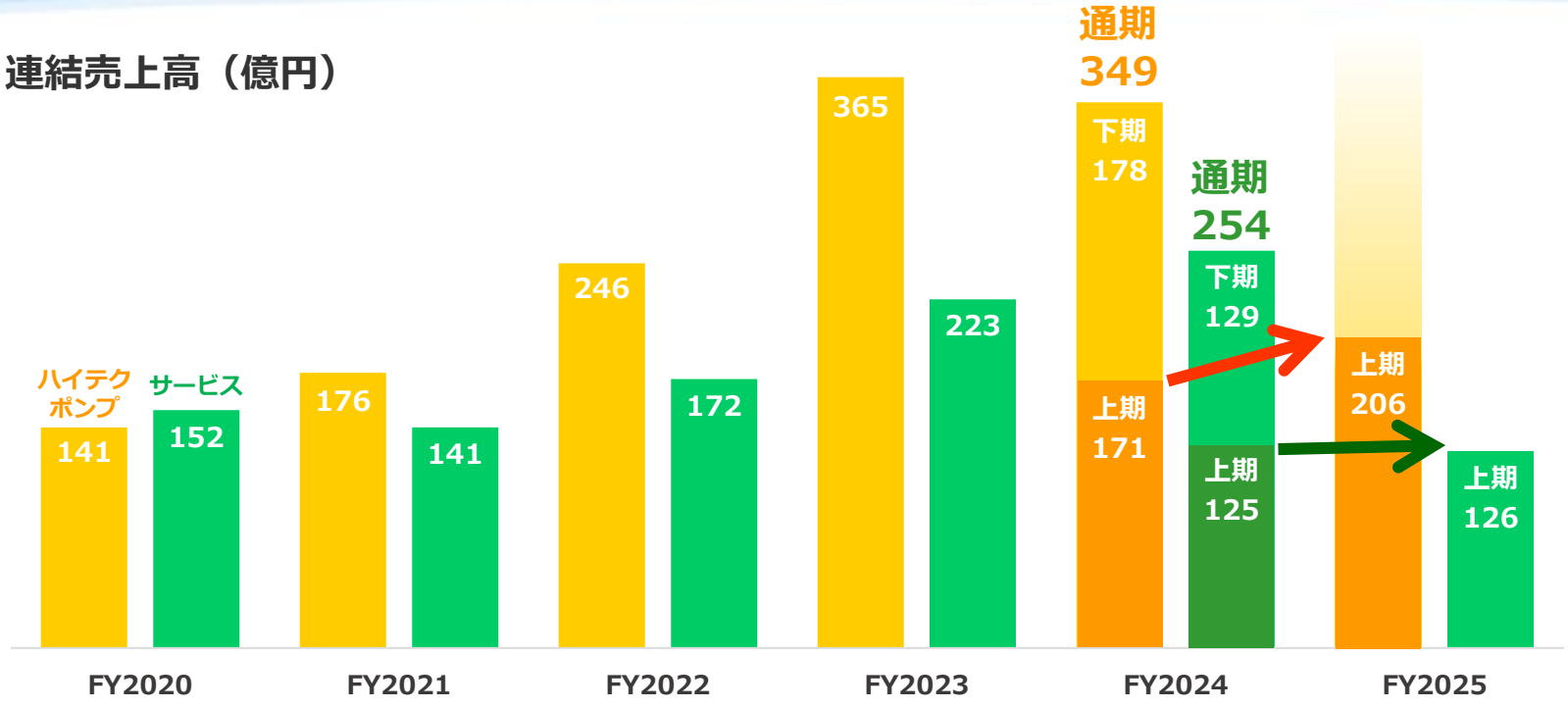
※増減分析の各項目は、為替影響の控除後のため、損益計算書の各項目の金額とは一致しません。

単体の売上総利益率（上期・下期・通期）および通期売上総利益の推移



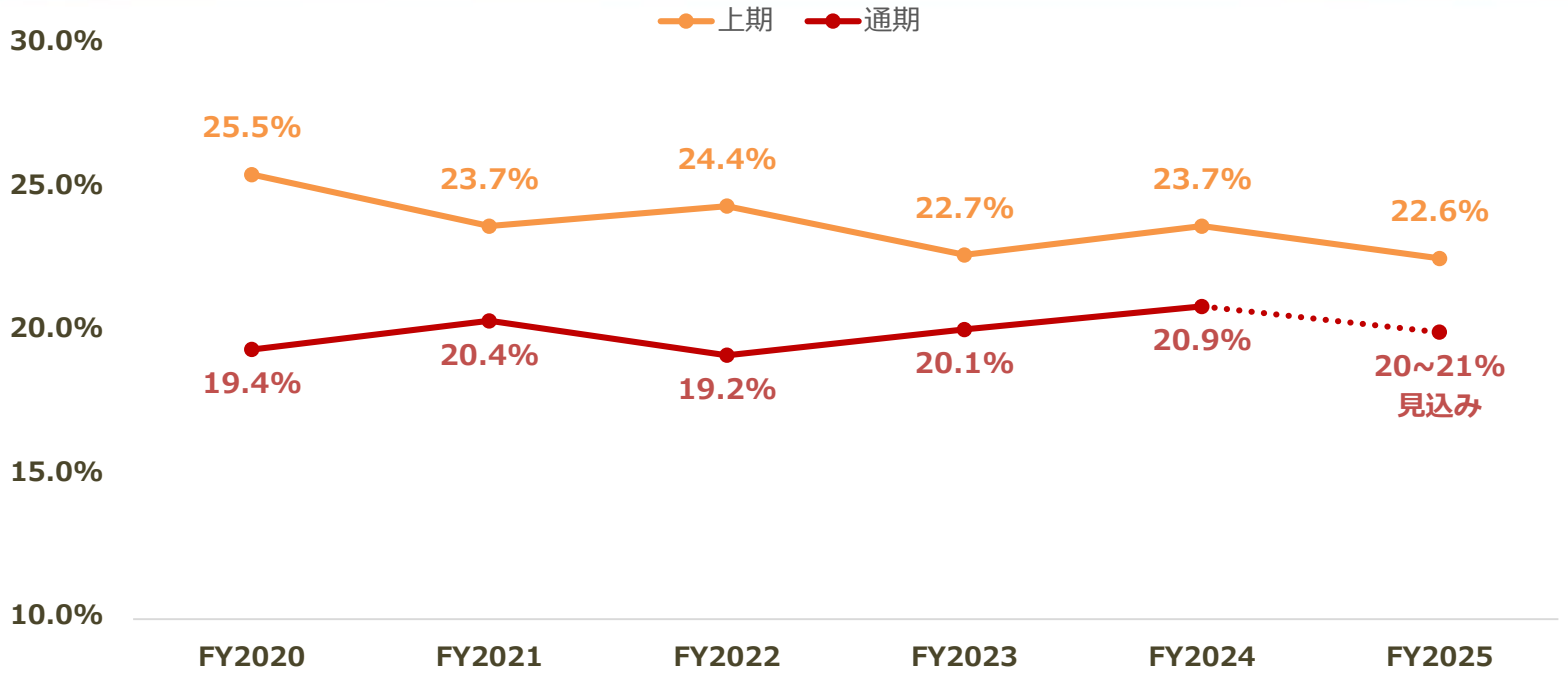
- FY2025上期は、利益水準の低いハイテクポンプの比率が高く、売上増に伴う外注加工費の増加も加わり、売上総利益率が低下。
- 今年度から取り組んでいる足元の「つくる力」の強化に加えて、中期でめざすサービス事業の強化を加速し、収益性の改善をはかっているが、売上総利益への本格的な寄与は来期以降を見込む。

ハイテクポンプとサービスの推移



ハイテクポンプの売上は極めて順調に推移し、
上半期で過去最高額となるが、サービス部門は前年度並みにとどまる。

売上高販管費比率の推移（連結）



販管費は4億円増加したが、売上増加もあり、売上高販管費比率では低下。
上期の主な増加要因は人件費の増加（2億円）。単体は横ばいで子会社及び連結で増加。

【1】2025年度第2四半期決算実績

【2】重点課題の対応

【3】2025年度通期決算見通し

【4】トピックス

重点課題の対応

「つくる力」の強化

「フロントローディング」と「生産能力増強」の両軸で、
内製比率を引き上げ、収益性の向上を図る。

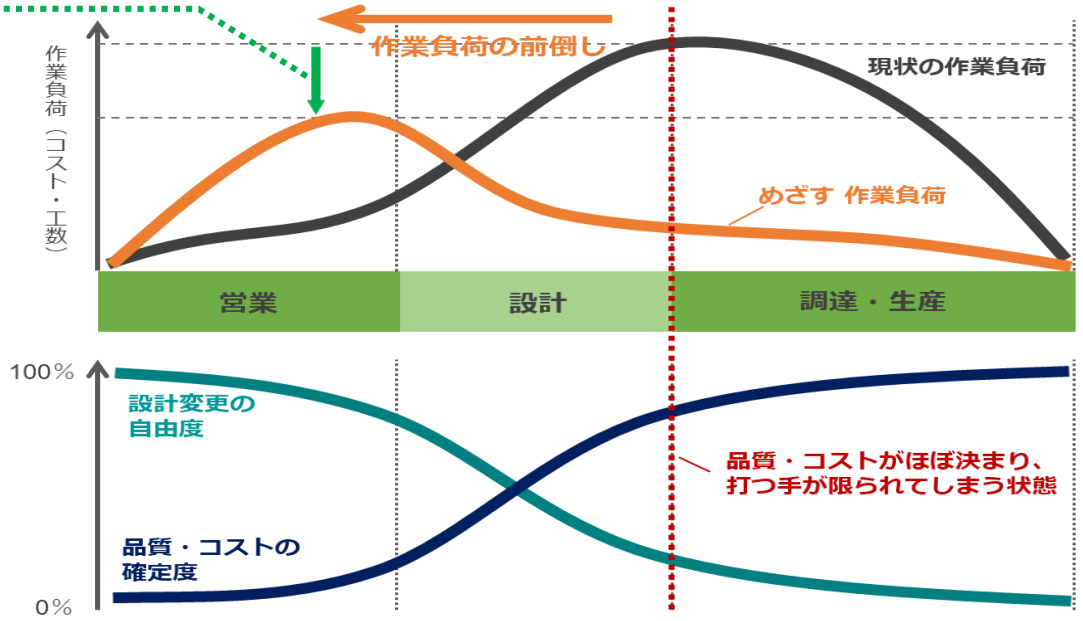
サービス事業の強化

収益性の高いサービス事業をさらに拡充し、全体収益の底上げを図る。

重点課題の対応

「つくる力」の強化　：　フロントローディング

・お客様との情報共有
・手戻りの撲滅 等により
総作業負荷を削減



［出典］
実践 エンジニアリング・チェーン・マネジメント-IoTで設計開発革新
日野 三十四（著）
日刊工業新聞社

設計から営業フロントへ10名規模で人員を異動済み。
これにより仕様の確定を早期に行うことで、後工程のリードタイムを確保し、
内製比率を引き上げる基盤を構築中。実際に、上半期で過去最高額の生産を対応済。

重点課題の対応

「つくる力」の強化　：　生産能力増強

＜子会社の活用＞

①インドのサービス拠点に機械加工工場を建設中（下期より既存サービス工場内で先行稼働開始）

②九州トリシマへボイラ給水ポンプの設計・製造を一部移管・実行済み

インドサービス会社（TPIPL）

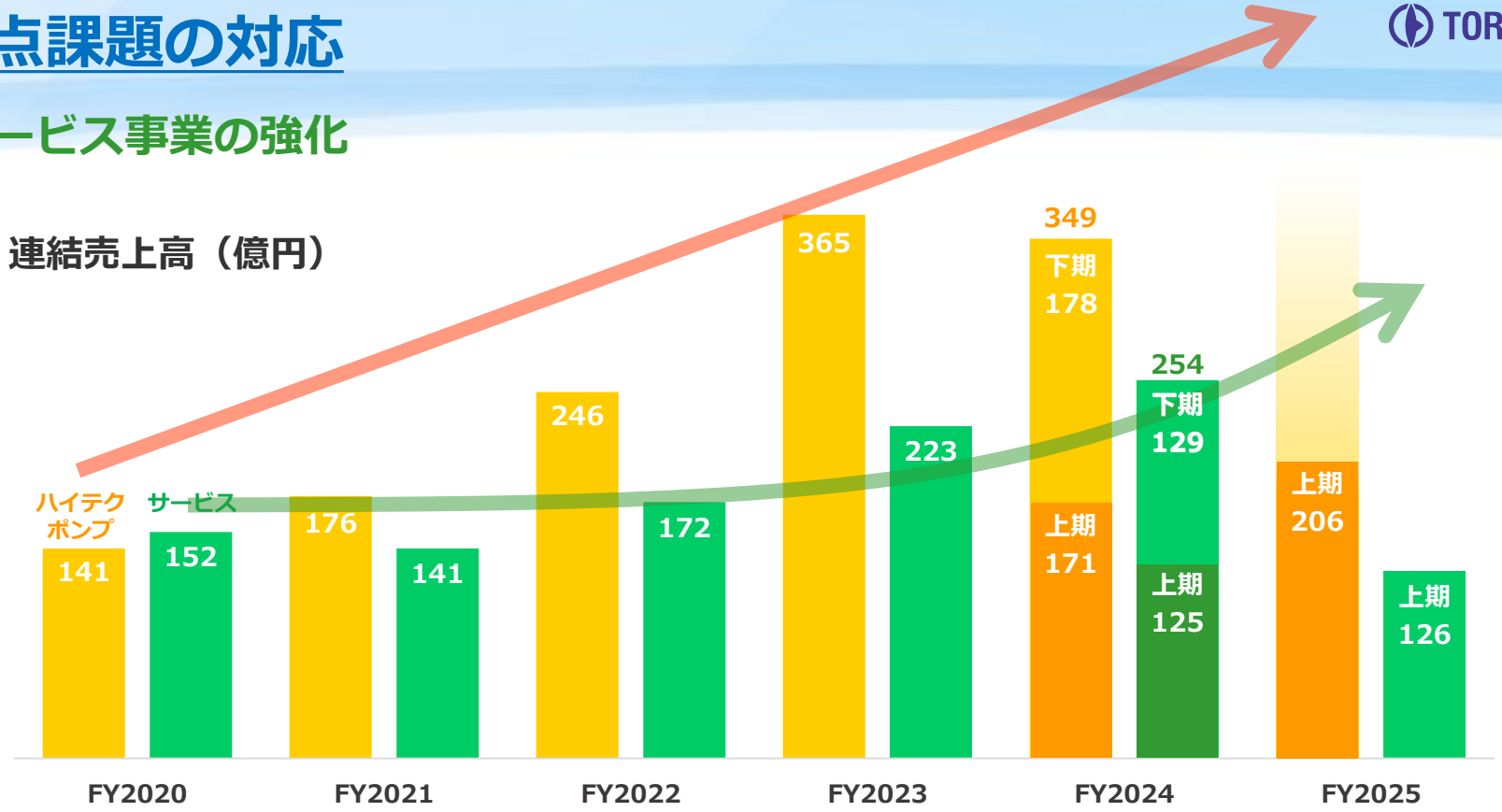
（株）九州トリシマ

＜機械加工会社2社の買収を完了＞

外注していた機械加工をグループ内で取り込む。ただし、利益に反映されるのは来期以降となる見込み。

重点課題の対応

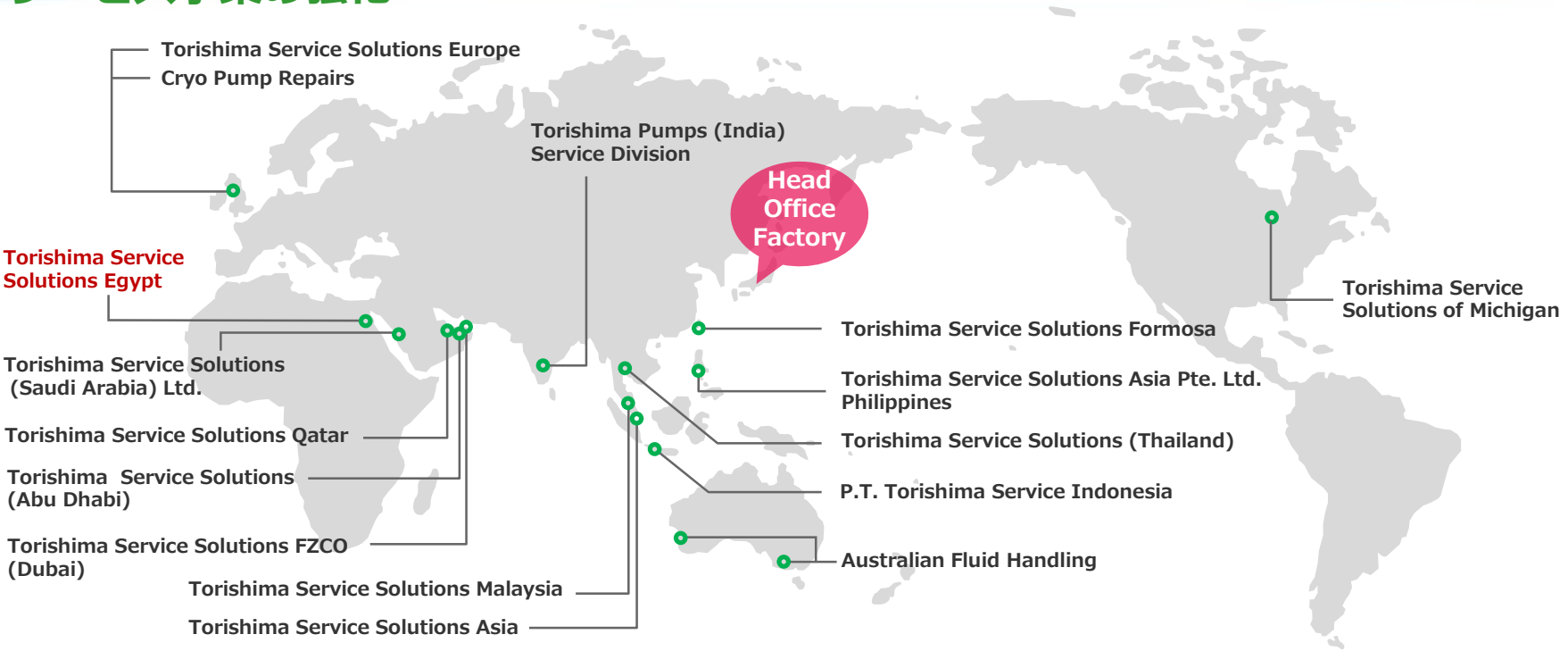
サービス事業の強化



伸びるハイテクポンプの需要を高収益のサービス事業に繋げ、
全体の利益率向上を図る。

重点課題の対応

サービス事業の強化



世界16拠点でサービスビジネスを展開中。

（エジプトのサービス拠点も2026年3月には計画通り稼働予定）

【1】2025年度第2四半期決算実績

【2】重点課題の対応

【3】2025年度通期決算見通し

【4】トピックス

2025年度通期決算見通し（連結）

TORISHIMA

単位：億円

	2024年度 実績	2025年度			当初 計画比
		上期実績	当初計画	修正計画	
受注高	956	483	900	**900**	**変更なし**
売上高	865	412	890	**890**	**変更なし**
売上総利益 （売上総利益率）	235 (27.2%)	99 (23.9%)	245 (27.5%)	**239 (26.9%)**	**▲6 (▲0.6pt)**
営業利益 （営業利益率）	54 (6.2%)	5 (1.3%)	67 (7.5%)	**58 (6.5%)**	**▲9 (▲1.0pt)**
経常利益	45	0	58	**51**	**▲7**
親会社株主に帰属する 当期純利益	41	▲1	43	**36**	**▲7**
為替レート	2024/3末: 1＄=149.52円	2025/9末: 1＄=148.88円	1＄145円を想定	1＄150円に想定を変更	

売上高は順調に推移し、昨年度以上の収益水準を確保できるものの、
外注費の削減が来期以降にずれ込むため、計画比で収益を下方修正。

2025年度通期決算見通し（単体・子会社）

TORISHIMA

■単体

単位：億円

	2024年度実績	2025年度			当初計画比
		上期実績	当初計画	修正計画	
売上高	642	320	650	650	変更なし
売上総利益 （売上総利益率）	129 (20.1%)	46 (14.4%)	135 (20.8%)	130 (20.0%)	▲5 (▲0.8pt)
販管費	105	53	99	104	+5
営業利益 （営業利益率）	24 (3.7%)	▲7 (▲2.2%)	36 (5.5%)	26 (4.1%)	▲10 (▲1.4pt)

■子会社（連結調整前）

単位：億円

2024年度実績	2025年度			当初計画比
	上期実績	当初計画	修正計画	
320	165	339	339	変更なし
115 (35.9%)	56 (33.7%)	118 (34.8%)	116 (34.3%)	▲2 (▲0.5pt)
82	42	85	83	▲2
33 (10.3%)	14 (8.3%)	33 (9.7%)	33 (9.9%)	0 (+0.2pt)

※子会社決算は子会社の連結調整前の数字となっております。そのため、単体+子会社＝連結業績とはなりません。

【1】2025年度第2四半期決算実績

【2】重点課題の対応

【3】2025年度通期決算見通し

【4】トピックス

インド機械加工工場の新設プロジェクト

インドサービス拠点において機械加工工場を新設し、
グループ全体の機械加工能力を増強する。

Phase 1：先行稼働 (実績/進捗)

- 設備導入　：　既存サービス工場内に機械8台を設置済
- 稼働時期　：　2025年下期より順次稼働
- 主な業務内容　：　本社受注品の加工（材料は現地調達）、サービス事業用部品の加工、本社からの加工業務（素材本社支給）も順次開始。

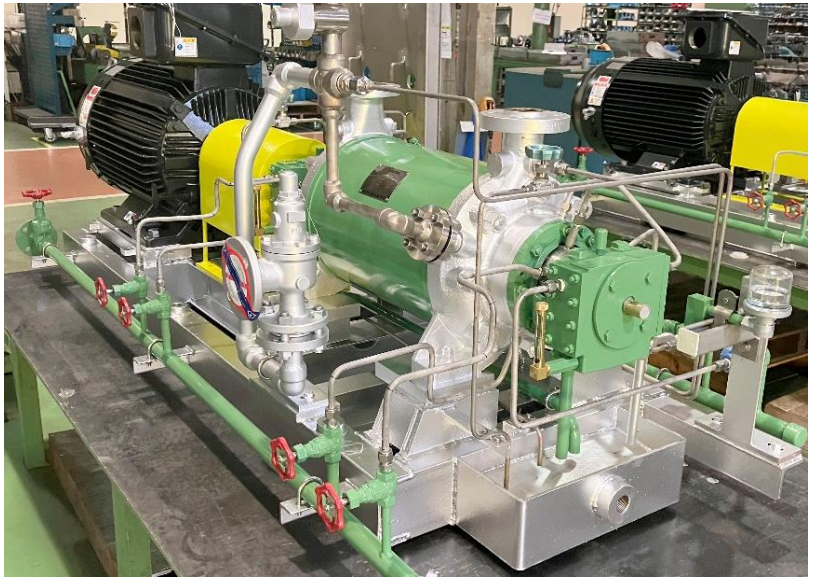
Phase 2：本格稼働 (計画)

2026年3月頃：

- 新設の機械加工工場の建屋が完成予定
- 新設建屋への機械移設と新規2台の機械の追加導入による本格稼働開始

（株）九州トリシマに
高圧ハイテクポンプの設計・製造を一部移管

本社工場で設計・製造していた高圧ハイテクポンプ（MHD型の小口径モデル）を
2025年7月よりグループ会社（株）九州トリシマに移管し、本社負荷の軽減を図る。
（2026年3月までに40台の受注見込み）



機械加工会社の子会社化 ①

内製化を推進し、コスト競争力の強化する。

Juneung Co., Ltd. (韓国)

設立年　：1992年設立

事業内容：ポンプおよび回転機器業界向けの
機械加工業務（ケーシングなどの加工に強み）

買収形態：100%子会社化

経緯　：従前より機械加工を依頼していた
主要な外注先を子会社化

機械加工会社の子会社化 ②

TORISHIMA

内製化を推進し、コスト競争力の強化する。

KRG Specialist Engineering Services Ltd.（英国）

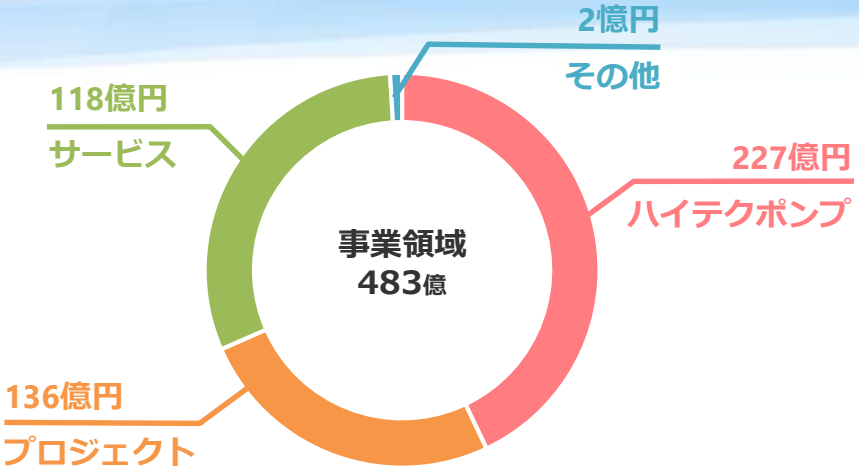
設立年　：1978年設立

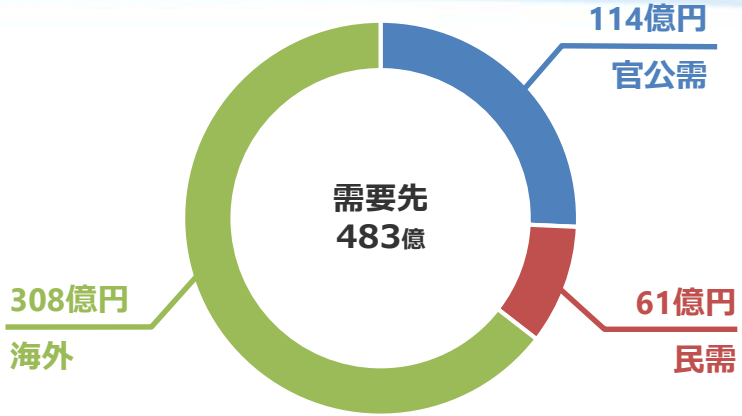
事業内容：精密機械加工
（シャフトなどの加工に強み）

買収形態：100%子会社（TSSE）による
完全子会社化

参考資料

事業領域及び需要先（2025年度第2四半期受注高実績）





ハイテクポンプ
発電所や海水淡水化プラント、上・下水道施設、かんがい施設など向けの大型ポンプ（エンジニアリングポンプ）及び一般産業向けのエコポンプ（小型標準ポンプ）。

プロジェクト
上下水道、かんがい、排水機場におけるポンプ設備全体のEPC（設計・調達・建設）案件。

サービス
既存ポンプ及びポンプ設備の取替え、保守点検、REDU（Re-Engineering & Design Up）、SV（スーパーバイザー）の派遣、部品交換など。

その他
小水力発電の導入における設計・施工・メンテナンスなど。

官公需
日本国内の国及び地方公共団体向け。上下水道施設、排水施設及びかんがい施設など。

民　需
日本国内の民間企業向け。火力発電所（事業用、バイオマス発電やごみ焼却発電、自家発電含む）、一般産業の各種工場、ビル設備、商業施設など。

海　外
海外向け海水淡水化プラント、火力発電所、上下水道施設かんがい施設など。

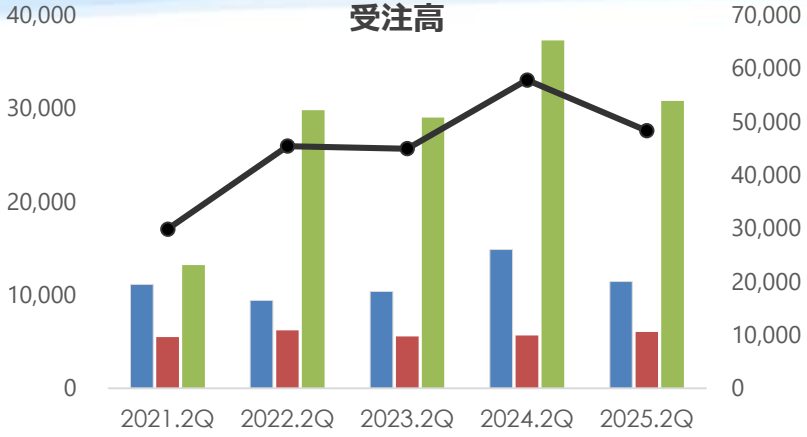
需要先別 受注高・売上高・受注残高

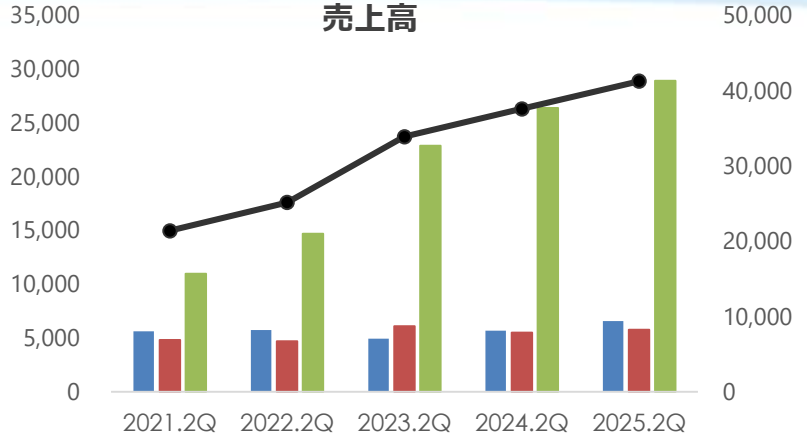
TORISHIMA

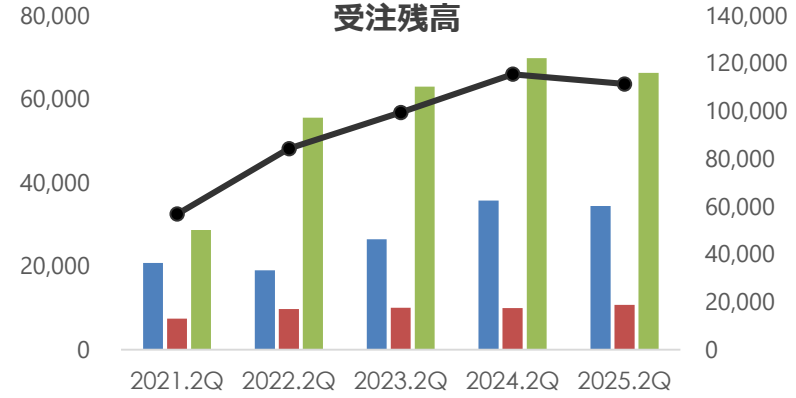
単位：百万円

	2024年度2Q			2025年度2Q		
	受注	売上	受注残	受注	売上	受注残
官　需	14,859	5,667	35,704	11,428	6,551	34,378
前年増減率	43.1%	14.7%	35.1%	▲23.1%	15.6%	▲3.7%
民　需	5,665	5,508	9,906	6,051	5,773	10,688
前年増減率	1.6 %	▲9.3%	▲0.8%	6.8 %	4.8%	7.9%
海　外	37,293	26,388	69,780	30,802	28,914	66,243
前年増減率	28.5%	15.4%	10.8%	▲17.4%	9.6%	▲5.1%
合　計	57,819	37,565	115,391	48,282	41,240	111,311
前年増減率	28.5%	10.8%	16.1%	▲16.5%	9.8%	▲3.5%

需要先別 受注高・売上高・受注残高の推移







単位　：　百万円

左軸　：　官需　民需　海外

右軸　：　合計額

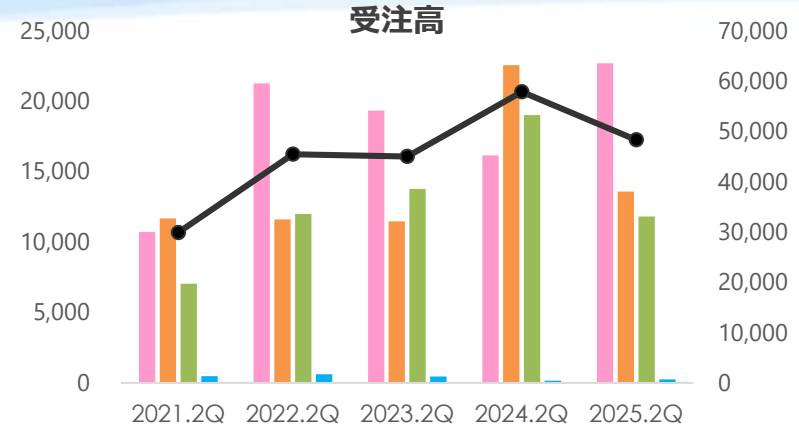
事業分野別 受注高・売上高・受注残高

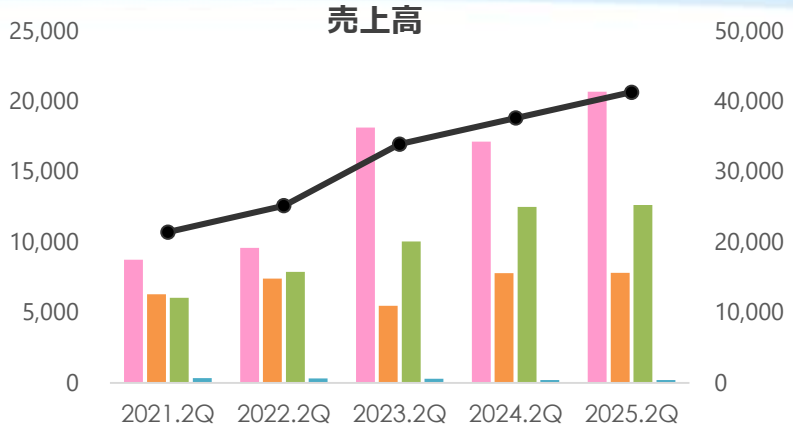
TORISHIMA

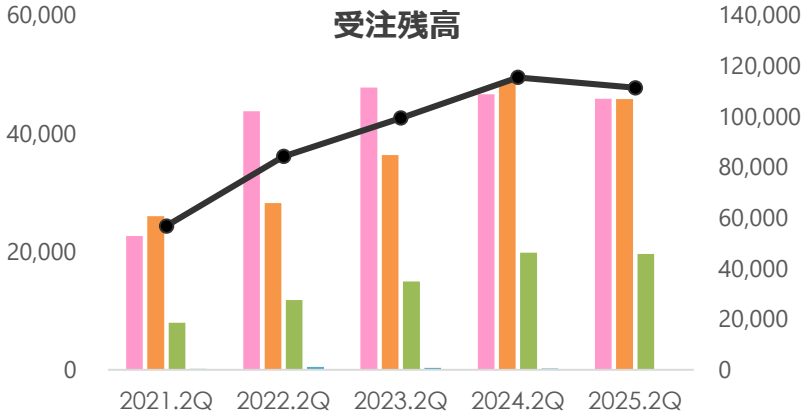
単位：百万円

	2024年度2Q			2025年度2Q		
	受注	売上	受注残	受注	売上	受注残
ハイテクポンプ	16,135	17,123	46,595	22,678	20,646	45,822
前年増減率	▲16.5%	▲5.5%	▲2.4%	40.6%	20.6%	▲1.7%
プロジェクト	22,534	7,790	48,749	13,568	7,797	45,777
前年増減率	96.7%	42.7%	34.1%	▲39.8%	0.1%	▲6.1%
サービス	18,999	12,469	19,822	11,794	12,611	19,586
前年増減率	38.2%	▲24.4%	32.4%	▲37.9%	1.1%	▲1.2%
その他	151	183	226	242	186	127
前年増減率	▲65.8%	▲34.2%	▲29.8%	60.3%	1.6%	▲43.8%
合　計	57,818	37,565	115,391	48,282	41,240	111,311
前年増減率	28.6%	10.9%	16.1%	▲16.5%	9.8%	▲3.5%

事業分野別 受注高・売上高・受注残高の推移







単位　：　百万円

左軸　：　ハイテクポンプ　プロジェクト　サービス　その他

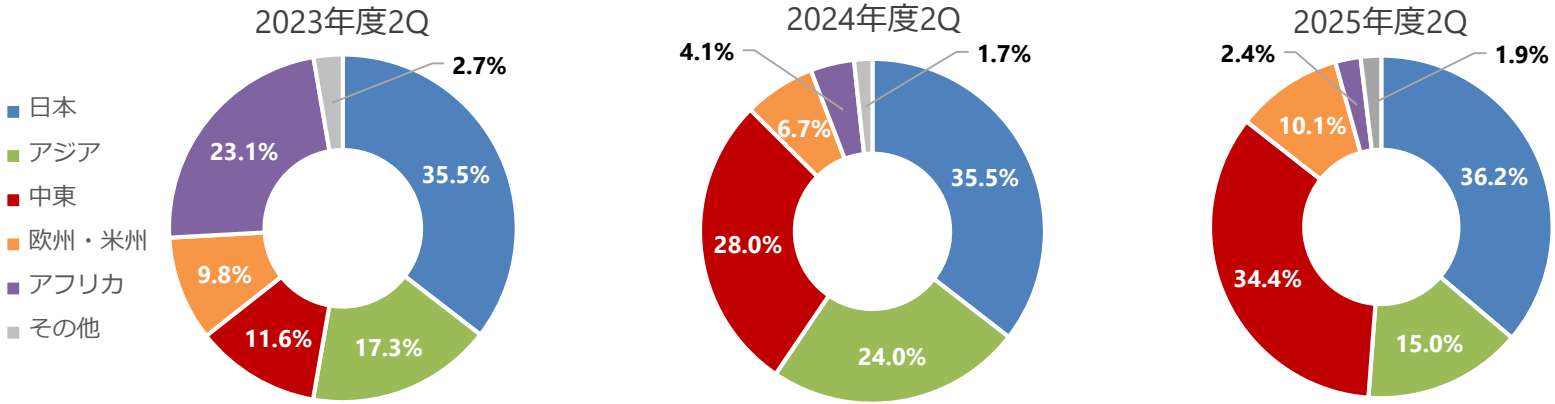
右軸　：　合計額

地域別 受注高

TORISHIMA

単位：百万円

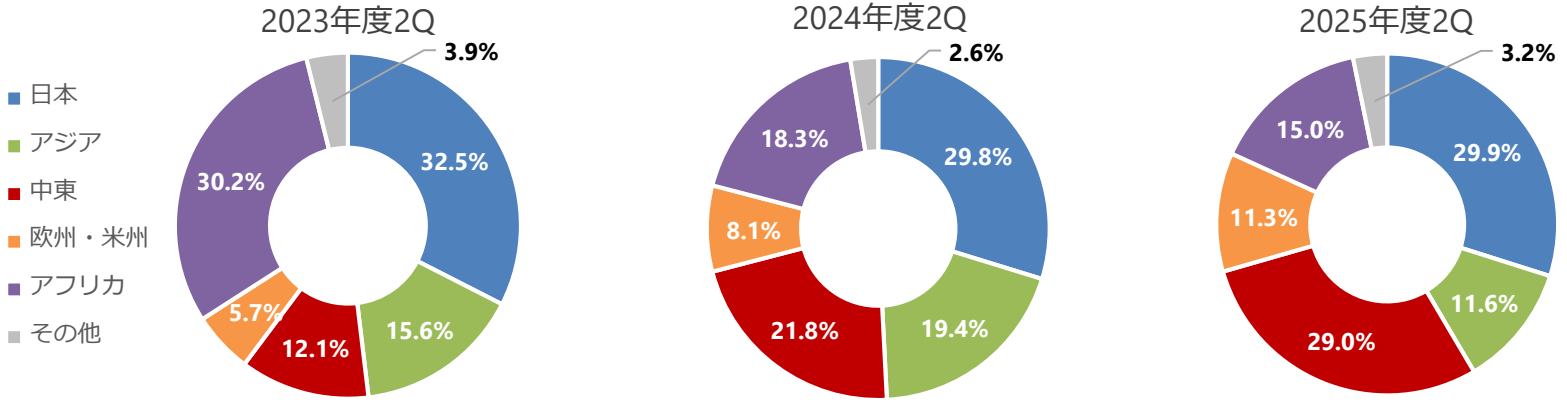
	日本	海外全体	海外内訳					合計
			アジア	中東	欧米	アフリカ	その他	
2023年度 第2四半期	15,950 (35.5%)	29,011 (64.5%)	7,766 (17.3%)	5,234 (11.6%)	4,388 (9.8%)	10,406 (23.1%)	1,218 (2.7%)	44,961
2024年度 第2四半期	20,524 (35.5%)	37,294 (64.5%)	13,871 (24.0%)	16,181 (28.0%)	3,881 (6.7%)	2,369 (4.1%)	993 (1.7%)	57,818
2025年度 第2四半期	17,479 (36.2%)	30,802 (63.8%)	7,244 (15.0%)	16,590 (34.4%)	4,878 (10.1%)	1,153 (2.4%)	937 (1.9%)	48,282



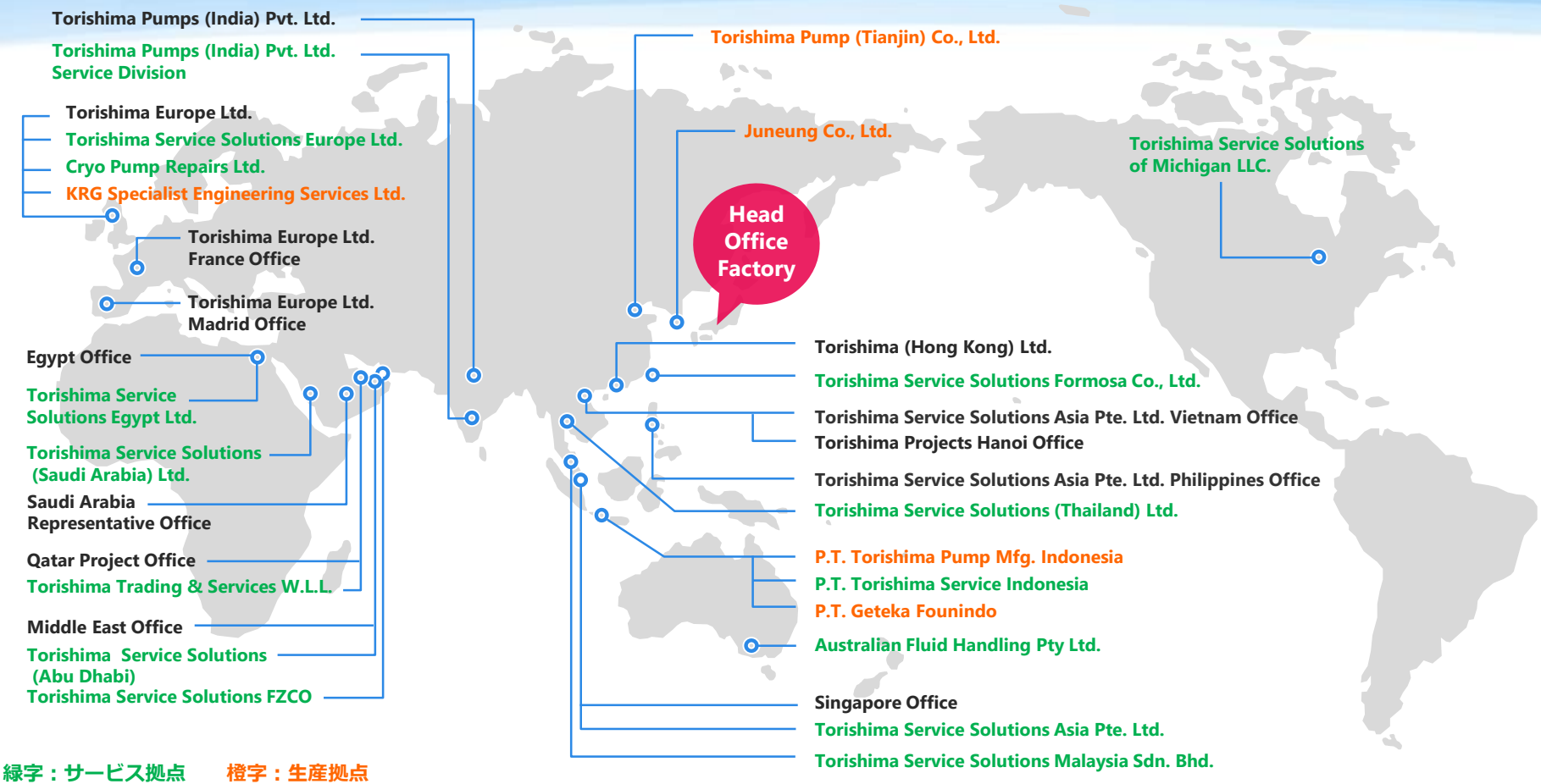
地域別 売上高

単位：百万円

	日本	海外全体	海外内訳					合計
			アジア	中東	欧米	アフリカ	その他	
2023年度 第2四半期	11,018 (32.5%)	22,859 (67.5%)	5,283 (15.6%)	4,109 (12.1%)	1,912 (5.7%)	10,242 (30.2%)	1,312 (3.9%)	33,877
2024年度 第2四半期	11,177 (29.8%)	26,388 (70.2%)	7,302 (19.4%)	8,172 (21.8%)	3,045 (8.1%)	6,885 (18.3%)	983 (2.6%)	37,565
2025年度 第2四半期	12,326 (29.9%)	28,914 (70.1%)	4,794 (11.6%)	11,976 (29.0%)	4,640 (11.3%)	6,177 (15.0%)	1,328 (3.2%)	41,240



グローバルネットワーク



緑字：サービス拠点　　橙字：生産拠点

本資料の業績などに関する将来の予想、見通しなどは現時点で入手可能な情報に基づき算出したものです。

したがって、実際の業績は今後の様々な要因によって、異なる結果となる可能性があることをご了承ください。

【お問い合わせ先】

株式会社 酉島製作所　総務部コーポレートブランディング課
Tel：072-695-0551
Email：ir-torishima@torishima.co.jp